



新しいステージに向けて始動 練馬区立美術館の 2025 年度



桜の季節が再びめぐってきました。新たな出発や出会いの時期を迎え、皆さまにおかれましては、ますます充実した日々をお過ごしのことと存じます。

練馬区立美術館は、いよいよ美術館再整備のための準備が今年度より始まろうとしています。新しいステージに向けての始動という意味で、練馬区立美術館の2025年度をリニューアル準備元年と位置付けたいと思います。

過去40年間にわたって数々の企画展を開催してきた現在の建物は、誰もがより楽しめる新しい美術館へと生まれ変わります。工事期間中は、これまでのように企画展を開催することはできませんが、建物の不在を感じさせないような多様な活動を代替の場で幅広く展開し、皆さまがアートに触れ、アートについて考え、話し合うことができるような機会が減じることのないよう、むしろそういった機会がより広がるように努めてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

リニューアル準備元年として、今年度は2つの展覧会を実施します。1つは「アートマルシェ2025」の一環で中村橋を舞台に、まちの皆さんのご協力を得て開催する現代アート展です。「身体

で感じる緑とアート」をテーマに、5人の美術家が中村橋各所、美術の森緑地、工事前の美術館の一部（ロビー等）に作品を展示します。さらにパフォーマンスやパレード、図書館の事業に加え、マルシェならではのお店の出店なども含め、アートとまちと人が出会う場の創出を目指します。もう1つは、石神井公園ふるさと文化館を会場に実施する「幕末・明治の浮世絵—江戸・東京の都市と周縁—」展（仮称）です。当館とふるさと文化館が各々のコレクションを出し合って企画構成をするこの浮世絵展は、江戸・東京の都市風景と練馬を含む武蔵野の往時を浮かび上がらせます。

さらに今年度は、よりパワーアップした教育普及事業をお届けします。「美術と社会」をテーマに外部から講師を招いて行なう本格的な連続講演会をはじめ、アーティストや研究者による中高生向けの連続美術ゼミ、小学生対象のワークショップ、学校教育との連携事業など多様なプログラムを用意して、あらゆる世代の皆さまのご参加をお待ちしております。練馬区立美術館の2025年度にご注目ください。

練馬区立美術館 館長 伊東正伸

Art marché 2025

アートマルシェ 2025

「身体で感じる緑とアート」



練馬区立美術館では、令和5年度より「まちと一体となった美術館」を目指して、練馬区立美術館・貫井図書館・美術の森緑地を会場にイベント「アートマルシェ」を開催しています。令和6年度には、近接する商店街による飲食物の出店、図書館による読み聞かせやサイクル本頒布会、そして美術館によるワークショップ、ダンサーと子どもたちによるパフォーマンスを実施しました。

3年目となる今回は規模を拡大し、「身体で感じる緑とアート」をテーマに展示事業とパフォーマンス事業の2本立てにて開催いたします。展示事業では、国内外の展覧会で豊富な実績をもつ廣瀬智央と山口啓介+カセットプラントファクトリー、芸術祭での経験をもつ渡辺泰幸・渡辺さよ、新進気鋭の若手作家である彫刻家の中村萌と写真家の白井晴幸からなる5組の現代美術作家を招聘します。花木や果実などの素材を活かしたインスタレーション作品、一本の木から掘り出して鋳造された彫刻作品、練馬の風景を撮影した写真などを美術館内、



美術の森緑地、商店街に展開し、まちを展示空間とする演出を図ります。

パフォーマンス事業では、一般社団法人パフォーミングアーツ協会と子ども向けワークショップを実施します。子どもたちと一緒に作る植物や昆虫などの小道具や衣装に合わせたダンスを制作して、商店街を練り歩くパフォーマンスを行います。またパフォーマーによるダンス公演も予定しています。

アートマルシェ 2025「身体で感じる緑とアート」は、秋の気配を感じられ始める9月の下記の間開催いたします。皆さま、ぜひ足をお運びください。



※ 写真は「アートマルシェ 2024」の会場風景です。



山口啓介+
カセットプラントファクトリーの作品（部分）

アートマルシェ 2025 「身体で感じる緑とアート」

展 示

2025 (令和7) 年 9月10日(水) ~ 9月28日(日)

パフォーマンス

2025 (令和7) 年 9月13日(土)、9月14日(日)

Events

イベント

令和7年度は、新たなプログラムを加えたイベントを幅広く展開いたします！
様々な年代の方に楽しんでいただける、新たなラインナップにご期待ください。

《注意事項》 イベント内容や申込方法などの詳細については、各イベントの開催日およそ1ヶ月前の当館ホームページ
(<https://www.neribun.or.jp/event/event.cgi>)、またはイベントごとの広報物（チラシまたは区報など）をご覧ください。
※ 日程などは変更になる場合があります。 ※ 10月以降のラインナップについては10月1日発行のレターをご覧ください。

講演会シリーズⅡ 「近代美術」

練馬区立美術館では、令和6年度より講演会シリーズ「美術と社会」を開催しています。本講演会は様々なジャンルの第一線で活躍する専門家を招聘し、「美術を通して社会を見つめる」という切り口から知を探究してきました。初年度のシリーズⅠでは、「現代アート」をテーマに4回の講演会を実施しました。

今年度のシリーズⅡでは「近代美術」をテーマに、全5回にわたり18世紀から20世紀初頭頃までの社会動向と文化や美術をめぐる知を探究します。

時期：9月～2月（予定）

美術館バックヤードツアー

美術館には展示室以外にも「収集・保存・研究・展示」に沿って様々な職員が働いています。普段は見るできない美術館の裏側を当館の学芸員と巡るツアーです。

時期：6月20日（金）10:30～11:30

7月19日（土）14:00～15:00（11月、12月も開催予定）

対象：小学生以上（小学生低学年の方は保護者同伴をお願いいたします）

中高生の美術ゼミ

中学生・高校生を対象とした「美術」にまつわる連続講座を、ゼミと称して開催します。「美術」というと、一見、捉え難いもののように感じるかもしれません。ところが実際には、かなり意識的に形成されているのが「美術」であり、それを取り巻く世界です。多くのプロフェッショナルたちによって「美術」は作られ、支えられているのです。その「美術」にまつわる各分野の専門家の講義を通して「美術」の世界を垣間見、学び、思考するのが本ゼミの目的です。

今年は、計10回のゼミを予定しています。通年でお申し込みされ、全講義に出席したゼミ生には修了証をお渡しします。各回のお申し込みも可能です。

時期：第1回 6月14日（土） / 第2回 7月26日（土）

第3回 8月9日（土） / 第4回 8月23日（土）

（10月～2月も開講予定）

小学生ワークショップ

小学生を対象とした制作ワークショップです。好きな素材で自由に作りたいものを制作できる「ネリビ図工室」、講師の先生と一緒に制作物をつくる「ワークショップ」の2本立てを予定しています。お子さんの手を動かす楽しさや造形表現への関心を養ってみませんか？



ネリビ図工室：5月24日（土） / 7月24日（木）

ワークショップ：6月21日（土） / 8月3日（日）

School program スクールプログラム

児童・生徒の皆さん向けに、学校の学習として美術館について知り美術に親しんでいただくためのプログラムです。学芸員が学年やご要望に合わせて内容をつくります。

今年度は、①施設見学と②出張プログラムを実施します。

①施設見学では、美術館の概要を説明するとともに、普段は見るできない美術館の裏側を巡り、博物館施設の機能や設備を紹介します。社会科見学や博物館学習などにもご活用ください。建て替え休館のため、実施期間は2025年12月までを予定します。

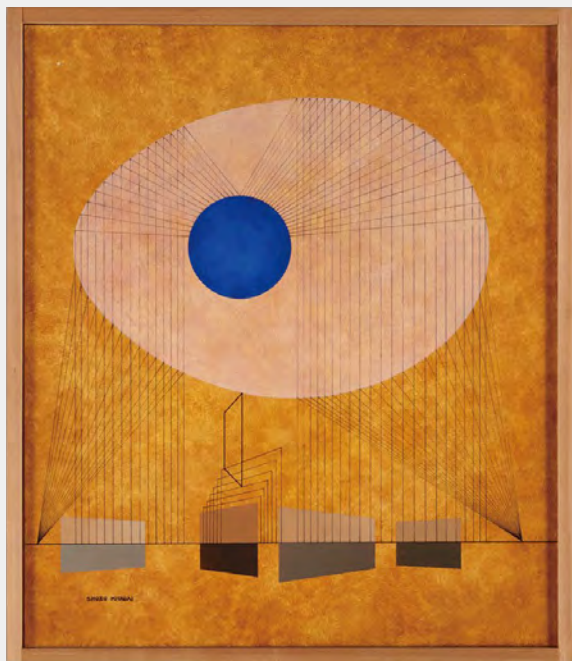
②出張プログラムでは、学芸員が学校へ出張し授業をお手伝いします。申請者のご相談のうえ、美術館の紹介や、所蔵作家・作品の紹介、所蔵品カードを使ったゲームなどを組み合わせた内容を提案します。通年で実施します。

※①②ともに繁忙期はスケジュールの調整により件数を制限する場合がございます。何卒ご了承ください。



北代省三《Land scape (A)》

1951年（再制作1989年）、油彩・カルトン、53.0×45.5cm



北代省三(1921-2001)は、絵画や写真、グラフィックデザインなど平面から、モビールや舞台美術、模型などの立体まで、ジャンルを横断した制作を続けた作家である。東京に生まれ、少年期よりカメラに親しむ。中学卒業後、新居浜高等工業学校機械科に入学、繰り上げ卒業ののち1942年に陸軍に応召して技術将校としてシンガポール、サイゴン等に赴任した。戦後、美術雑誌を通じて前衛芸術に関心を持ち、1948年、モダンアート夏期講習会で福島秀子、山口勝弘らと知り合う。岡本太郎の勧めで出品した1949年の日本アンデパンダン展では瀧口修造が評を寄せ、物理現象の図解のような幾何学的な抽象画で注目を集めた。1951年に、福島、山口、武満徹らと実験工房を結成。タケミヤ画廊で2度の個展を開催したのちに絵画制作から離れ、舞台芸術に注力していく。大辻清司との共同制作「APN」では写真による表現を探索し、1960年代以降も実験的な写真の発表を継続するが、万博を経て写真からも距離をとり、模型飛行機に関心を移した。

当館では、「浮遊する彫刻」展(1990年)を経て本作を含む3点の絵画を購入収蔵した。北代は村松画廊で個展を開催した1989年前後に、1950年頃の絵画の一部を再制作したが、本作もそのうちの一点である。北代は幾何学的でありながら、かつ有機的な生命を感じさせる卵型をしばしば描いた。本作の卵型は整然と引かれた多数の直線によって画面下部の水平方向の直線と結ばれており、建物が並ぶ地平に引き繋がれた巨大な風が気球のようにも見える。線と平面による構成という点に加え、浮力や張力など、物質間に働く力の緊張関係を描いているという点に、3次元に動くモビール作品と共通する北代の関心を見出せる。

学芸員 木下紗耶子

施設の貸出について

当館では、皆さんが美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的に参加できる場を提供するため「区民ギャラリー」と「創作室」の貸出を行っています。創作作品の展示発表の場である「区民ギャラリー」では、子供たちの絵画展からインスタレーションの個展まで、様々な展示をどなたでも入場無料でご覧いただけます。展示スケジュールは、1ヶ月先の予定まで当館ホームページで確認ができます。気になる展覧会がありましたら、ぜひ足をお運びください。「創作室」は美術作品の創作・研究・学習活動を利用目的とする団体もしくは個人に貸出しています。作業台、プレス機、イーゼルなどの備品も利用可能です。※ 区民ギャラリーはご利用の6ヶ月前に利用申込の抽選会を行います。抽選会の日程および詳細は当館ホームページをご確認ください。区外の方も参加いただけます。※ 創作室の利用には「練馬区公共施設予約システム」にご登録いただく必要があります。登録方法等の詳細は当館ホームページをご確認ください。

<https://www.neribun.or.jp/rental/museum.html>

編集後記

これまで28回にわたり「練馬区立美術館ニュース」を発行して参りました。美術館再整備を控え、当館は長期休館に入ります。休館中は、アートマルシェをはじめ、講演会やワークショップなどのイベントを通して、美術館を発信して参ります。この状況下で、年間の展覧会情報を中心にお伝えしていた美術館ニュースも役割を終え、年に2回の発行によってより新鮮な情報を伝えるツールとして生まれ変わります。2025年4月発行の本誌「美術館ニュースレター」がNo.1となります。次回は、10月発行予定です。休館中も練馬区立美術館の活動にぜひご注目ください。

第71回 練馬区美術家協会展

令和7年度の練馬区立美術館最初の事業として4月6日(日)から「第71回練馬区美術家協会展」を開催します。

「練馬区美術家協会」は1955年(昭和30年)に練馬区在住の美術家および美術評論家によって創立されました。創立以来、練馬区の文化・芸術の振興に寄与いただいています。会員の作品は区立施設各所に展示されているので、目にされている方も多いかもしれません。本展は、会員のみなさんの作品を一堂に見られる機会です。練馬区の文化の力を感じられる展覧会にぜひ足をお運びください。

—第71回練馬区美術家協会展—

会期：令和7年4月6日(日)～13日(日)
会場：練馬区立美術館 2階展示室

第57回 練馬区民美術展の開催時期について

練馬区立美術館では、区民の方々の日頃の創作活動から生まれた作品を展示する「練馬区民美術展」を毎年開催しています。例年は2月の開催ですが、今年度(令和7年度)の『第57回練馬区民美術展』は12月に開催します。

出品作品の募集期間は9月1日(月)から9月30日(火)です。

例年ご出品いただいている皆様には2ヶ月ほど早い開催になりますが、ぜひご予定ください。まだ出品したことのない方もこの機会に作品を制作してみませんか。

詳細については、令和7年9月1日号の『ねりま区報』でお知らせいたします。

Uni-Voice

発行・問い合わせ：



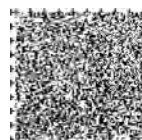
練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

〒176-0021 東京都練馬区貫井 1-36-16
TEL 03-3577-1821
HP： <https://www.neribun.or.jp/museum.html>
X (旧 Twitter)：@nerima_museum

HP



X (旧 Twitter)



専用アプリの Uni-Voice を使用して下の音声コードを読み取ると情報を読み上げます。